

学校法人 東放学園
専門学校東京アナウンス学院殿

2020年度 学校関係者評価委員会報告書

専門学校東京アナウンス学院
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

【関連業界】

山崎 譲 株式会社円企画相談役 一般社団法人日本芸能マネージメント事業者協会理事長

【高校教員】

早川 信一 昭和第一高等学校 入試広報室 教諭

【卒業生】

岩田 まこ都 株式会社シー・フォルダ

【地域住民】

横倉 正志 一般社団法人社会資源再生機構理事長

【保護者】

佐藤 和 放送声優科2年生保護者

2. 事務局

谷 誠 専門学校東京アナウンス学院 校長

船場 吉行 専門学校東京アナウンス学院 副校長 教務教育部 部長

川田 泰弘 学務管理部 部長

上野 浩一郎 学務管理部 主任

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

新型コロナウイルス感染拡大の現状から、対面での委員会は実施を見送った。

委員全員に2019年度自己評価報告書をはじめとする資料を郵送することで、個別に評価を求め、各項目ごとに全員の評価を比較して、総合評定を決定することとした。

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

4. 学校関係者評価結果

【評定の内容】

- 4：適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
 3：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
 2：対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
 1；全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

I. 2019年度重点目標について

重点目標1.新規ターゲット層の発見と獲得

コメント	評定
エンターテインメント分野におけるリカレント教育には、一定の需要が見込めるものと思われる。社会人生活を送りながらも夢を諦めきれない人達、さらに学びたかった卒業生など。通常の会社勤務生活を送っていても、プレゼンなどで人の前に立つこともあり、様々な場面でニーズがあると考えられる。	4

重点目標2.カリキュラム・デザイン(教育計画の再設計)

コメント	評定
学校・学科の新たな基盤を広げる教育活動の最適化をさらに推進する意欲的な姿勢は高く評価できる。	4

重点目標3.高等教育の修学支援新制度申請・職業実践教育の検討

コメント	評定
新規の制度、時代の変化に積極的に適応していくとともに、課題を的確に捉え、見直していこうとする姿勢が見られる。達成計画も明確である。	4

重点目標4.中途退学率の低減

コメント	評定
「中途退学率の低減」は恒常的な取り組みとして掲げられており、教職員も高いレベルでこれを認識している。	4

重点目標5.進路決定率の向上

コメント	評定
専門学校校の使命として、進路決定を恒常的に重視することは適切である。多様化する学生のニーズに応えながら、エンターテインメント業界の発展に貢献できる人材を育成し続けることが重要である。	4

II. 評価項目別取組状況について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

コメント	評定
学園の理念とそれに基づく教育方針を教育活動の根幹としており、教育に対する姿勢が一貫している。従来求められていた人物像からAIやVtuberなどどのように共存し、変化していくかを注視する必要がある。また人間性も求められるので、これまでと同様に挨拶は重要視するべきである。	4

基準2 学校運営

コメント	評定
学校運営に関する組織は整備されており、理念に沿った教育内容とともに、堅実な運営方針も一貫している。	4

基準3 教育活動

コメント	評価
ますます多様化する学生のニーズに応えようとする姿勢がみとめられる。その一面、エンターテインメント分野の教育活動における評価基準をどこにおくか設定が難しい面がある。学科や学年の垣根を越えた取り組みも求められる。	3

基準4 学修成果

コメント	評価
在校生に対しては個別に手厚くフォローし、卒業生に対しても年齢の制限なくサポートする体制にある。卒業後に芸能世界に入っても、決して特殊な世界ではなく、一社会人として常識ある行動をとらなくてはならないので、自覚を促していきたい。卒業生との結び付きをさらに展開させ、在校生が就職活動をする際、卒業生側から声を掛けやすい環境を構築する必要がある。	3

基準5 学生支援

コメント	評価
学生が相談しやすい環境を整えており、学生のニーズを適切にとらえ、それに応えようとする姿勢がみとめられる。特にメンタルヘルス、経済的支援については手厚いものがある。ただし、学びの機会が一部の学生に偏り過ぎていないか、注意が必要と思われる。	4

基準6 教育環境

コメント	評価
業界の動向に従って機材・設備を導入・更改していることは、実践教育の方針に沿うものであり、同時に教育上の環境は十分整備されていると言える。また校舎の耐震工事を完了し、法令に従って備蓄品を確保するなど、防災に対する意識も高い。	4

基準7 学生の募集と受入れ

コメント	評価
募集活動は積極的かつ時期等は適切に行われていると評価でき、入学者は規程に則って適正に選考しているとみとめられる。高等学校へは教育情報のみでなく卒業生の活動状況も報告されており、意識の高さを感じる。	4

基準8 財務

コメント	評価
借入金、長期未払金はなく、適正な財産管理のもとで、健全な財務状況にあると考えられる。また、収支については、法人のホームページ上でわかりやすく公開されている。	4

基準9 法令等の遵守

コメント	評価
法令の変更などに応じて、学則、各業務規程を適宜整備するなど、法令遵守には組織的に取り組んでいる。情報公開については、ホームページ、冊子ともに充実した内容である。	4

基準10 社会貢献・地域貢献

コメント	評価
社会貢献・地域貢献については、環境の変化・多様化を視野に入れた発想も必要と考えられる。国際交流に関する取り組みがやや少なく、留学生の進路もさらに充実させることが課題である。また、在校生達の母校に対し、エンターテインメント分野の専門学校として、文化祭の支援をするなど、活動の裾野を広げることも求められる。	3

5. 所感

今回、満期を迎えていた岩田委員に、1年の任期延長を依頼して、了承をいただいた。今年度の委員会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、対面方式での開催を見送り、郵送での評価・コメント提出となった。各委員それぞれの立場から多様な意見の提出があり、充実した内容であった。
--

以上